



早期設置を!!



明石市はゼロ

姫路市、西宮市、川西市、伊丹市などは令和7年度で全小中学校に空調を設置できる見込み。小野市、加東市、相生市などは既に設置済みです。ところが明石市は現状設置ゼロ、今年度も設計等の予算はありません。令和7年度の予算審議は来年3月ですが、市役所内の予算要求や査定は秋から冬ごろ。市民の願いを議会からも、市民からもしっかりと伝えて参りましょう。

明石市の小中学校には体育館の空調(冷房)がありません。県内の他自治体では、近年の猛暑の影響で市民ニーズが高まり、空調の設置が進んでいます。今年度設計↓来年度設置完了の自治体が多い中、明石市では未だ調査研究中。中西レオは必要な投資だと考えますが、いかがでしょうか。

体育館にエアコンがつかないのなぜ？

子供の街とは？

子供たちは異常な暑さの中、体育の授業や部活動、放課後スポーツ等で体育館を使っています。ときには暑さ指数※が規定値を超えて中断・中止となることもあり、空調の付いた他市の学校を羨ましく感じています。

千代田区では夏休みに空調の効いた体育館を開放し、子供が体を動かせるようにしています。明石でも同様にすれば、夏休み中の学童保育でも利用できるでしょう。いま子供たちが困っている声が行政に届いていないのならば、声の集め方、聞き取りの手法に問題があるのではないのでしょうか。

ハード整備は払い終える

近年の明石市は空調も含めたハード整備より、オムツの無料化などソフト施策を重視してきました。例えばオムツ配布には毎年1.2億円が必要ですが、これは国や県が制度化しない限り終わることがない支払いです。一方、ハード整備は数年かけて払い終わると後ランニングコストのみ。行政の役割として、災害とも呼べる暑さへの対策は急務です。

※【暑さ指数】

気温や湿度、輻射熱(ふくしゃねつ)をもとに熱中症の危険度を判断する指標。環境省のサイト等で確認できます。

命を守るための税金

多くの自治体では、空調設置の財源に緊急防災・減災事業債という起債(借金)を活用することで住民の負担を軽減しています。これは返済額の70%を国が負担(交付税措置)してくれるもので、明石市でも活用できるものと考えます。

設置費用は体育館の面積や設備のレベル、断熱や電源増強の工事等で変わってきますが、1校当たり2億円から500万円まで幅広い先行事例があります。明石市は後発するからこそ、他市の事例を活かした良いものを提供できると考えています。早急に予算化するために市民の声を市民提案箱や議会への陳情等でお寄せください。ただし「市長への手紙」はお返事ナシ、公開ナシなのでお勧めしません。

